

「教育に関する大綱」の基本的考え方について

◆ 「福井の教育」のステージアップ

- 福井の小・中学生の平均的な学力・体力は全国トップレベルの水準
- 地域・家庭とのつながりなど、これまでの「福井の教育」のよさを活かしながら、さらに次のステージにレベルアップを図る。

①平均的学力上位から更に個々を伸ばす教育への向上

- ・小・中学生の平均的な学力の高さを高校につなげ、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出して希望する進学・就職等を実現すること

<背景>

- ・大学入試制度改革に対応するため、課題を見つけ解決する力、知識を活用する力を伸ばす授業改善が必要。高校だけでなく中学校の授業も変える必要があり高校入試における評価手法も変更

<主な施策案>

- ・県立高校入試制度の改革（知識を活用する力の評価、学校別問題など）
- ・高志中学校での中高一貫教育の成果を他の学校に波及 など

②人とつながり社会に参画する「社会力」を育成

- ・子どもたちの高い学力・体力を実際の社会で活かすため、人とつながりながら社会に参画する「社会力」の育成が必要

<背景>

- ・子どもの社会への興味・関心を伸ばす実体験を充実する必要
- ・地域・家庭・学校の信頼感とつながりの強さを活かした学習を強化
- ・選挙権年齢引き下げに対応した社会参画意識を育てる教育が重要

<主な施策案>

- ・同じ年代だけでなく幅広い年代との協働や自分たちの地域を他の地域で紹介するなど交流を重視した社会力を育てるプログラムを作成・実践
- ・地域学習を支援する地域住民などの「学校たすけ隊」を創設 など

◆ 人口減少社会への対応

- 人口減少が進む中、ふるさと福井のことを学び、福井に住んで、地域の課題を解決して将来を担う人づくりを進めることが重要

①福井の未来の原動力となる「ふくい創生」の担い手の育成

- ・ふるさと福井を知ることに加えて、福井を「好きになる」、福井で「実践する」、福井で「生きる」ことを重視したふるさと学習を充実
- ・企業経営者や研究者など各分野の第一人者から直接指導による学習内容の高度化

<背景>

- ・将来の福井を支える人材を育てるため福井の企業や生活環境、自然、地域のつながりを知る機会を増やすことが重要

<主な施策案>

- ・児童・生徒によるまちづくり活動や地域課題解決への支援プログラム策定
- ・「ふるさと先生」など企業経営者や先端研究者による直接指導体制を整備
- ・福井の企業や自然、都市部と比べた生活環境の良さなどを知るライフプラン教育の実践 など

②新しい教育に対応した教員指導力の向上や学校・学科の再編

- ・大量退職を迎える教員が活躍する場の創出、若手教員を応援する仕組みの確立
- ・知識を活用する力の育成方法や ICT 機器の活用方法など、新たな教育手法に対応するため教員の研修環境の充実
- ・児童・生徒数の減少を踏まえた学校規模の適正化や高校再編に伴う特色ある学科の設置

<背景>

- ・今後 10 年間で約 4 割の教員が定年退職見込
- ・県内の高校 1 年生は 7,905 名 (H26) から 6,743 名 (H37) に減少見込

<主な施策案>

- ・自主研究の支援と成果を共有する仕組みを確立。退職教員と連携した若手教員の育成、国際的な授業研究の推進など多様な学びの機会を充実
- ・生徒数の減少や社会のニーズに合わせた計画的な高校再編の実行
- ・嶺南地域でのサイエンス・国際コースの設置 など